

絆

題字

新潟市教育委員会
阿部愛子教育長

新潟市
青少年育成協議会

第4号

●発行●
平成25年12月25日

●事務局●
新潟市教育委員会
生涯学習課青少年室

これからの 育成協活動に向けて



新潟市青少年育成協議会
副会長 山田 道夫

皆様におかれましては、常日頃から新潟市青少年育成協議会の活動に対し、ご支援、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

先般「平成二十五年度会長事務局研修会」が九月二十七日東区プラザで開催されました。三十九地区の育成協会長、事務局担当者の皆様から参加を頂き、大変多くの意見を頂きました。ここで当日の様子をご紹介します。

最初に坂井輪中学校区青少年育成協議会の原様、大久保様より「子どもたちの育ちを地域で支援することを目指して」というテーマのもと、事例発表をおこなって頂きました。

- 内容については、
- 一、組織・特徴について
- 二、運営・事業について
- 三、長く続いている事業
- 四、新規事業
- 五、坂井輪中学校区のビジョン

以上の五項目について、具体的に大変素晴らしい特徴ある活動を発表して頂きました。

特に、「地域で子どもを育てる」というビジョン。その構想の下で、子どもたちのたくさん笑顔のために真剣に子どもたちの事を考える私たち大人がいつも子どもにとつて最善の利益は何かを考えながら、失敗する子どもたちをあたたかく見守り、ともに活動して感動を共有するという大原則を私自身改めて、認識させて頂きました。

続いて第二部では、昨年と同様「これからの育成協活動に向けて」というメインテーマのもと、全体ディスカッションが行われました。昨年の研修会でいくつかが「次回のテーマ」として上がっておりましたが、それらがお互い関連しているということから、今回は前記のテーマのもと意見交換をおこなって頂きました。最初に、私も育成協のメイン事業である「わたしの主張大会」について各地区の特徴ある取り組みを、多くの皆様から紹介していただきました。その中で、地域や学校のさまざまな都合等があり、対応が大変であると言ってお話や、子どもたちが、自分の将来を考え自分の意見をまとめて発表する事自体大変意義が深い

ものがあるので、ぜひとも参加人数、参加校を増やしていく方策を講じるべきであると前向きな意見も聞かれました。

二つ目の街頭育成員・「三協」の連携については、うまく連携を行っている地区もありますが、多くの地区では、地域性や今迄の歴史的な流れから、それぞれが街頭育成をおこなっているのが現状のようです。今後は、関係の深い他団体と連携して活動すべきであるとの意見が聞かれました。

三つ目の組織と予算については、十分に機能している地区もありますが、なかなか組織として成り立たず（役員のなり手がいない）、予算の面でも活動資金が不足の為、十分な活動が出来ないという悩みを抱えているという声が聞かれました。最後に、小学校等の統廃合、分割等による学校の再編における育成協の組織のありかたについての意見がありました。

以上、多くの皆様から課題等について貴重なご意見を頂きました。今後の育成協の明るい展望が、少しでもみえてきたように思われます。これからは、五年、十年先の育成協活動を想定（子どもたちの減少、役員の高齢化等）し、今からひとつでも課題をクリアしていかなければならないと真摯に考えていくべきだと思います。また、育成協の役割というものを、もう一度原点に返って皆様と共に考え、行動していきたいと思えます。今後とも、子どもたちの為に絶大な皆様方のご理解、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

平成二十五年度 県・市功労者表彰受賞者紹介

青少年健全育成功労者
新潟県知事表彰

小新中学校区 飯塚 謙助様

飯塚様は、平成十八年度から二十二年度まで、当会の会長を務められました。

新潟市青少年育成協議会
功労者表彰

大形地区 宮川 嘉夜子様
有明台小学校地区 戸田 道治様
曾野木地区 安中 一女様
巻地区 岡村 増雄様

受賞おめでとうございました。

平成二十五年度 新潟市青少年育成協議会役員紹介

会長	白倉政男
副会長	関川弘雄
顧問	飯塚謙助
理事(北)	玉井孝一
理事(東)	青柳司郎
理事(中央)	水本直弥
理事(江南)	市野瀬寛
理事(秋葉)	山田啓一
理事(南)	本間勝芳
理事(西)	小柳 武
理事(西蒲)	吉田金豊
	堤 美幸
	郷扶二子
	吉田昭英
	井筒 進
	矢部幸雄
	山田道夫

各区青少年育成協議会活動紹介



新津地区では、アズ直子先生を講師に11月16日青少年健全育成・人権啓発推進大会を実施しました。

秋葉区



豊栄地区（早通）の活動の一つである中高校生の居場所で地域の子どもと大人が交流する「アーリーロード」を開催しました。

北区



小針中学校区では、9月24日～27日秋の交通安全週間に合わせ生徒の登下校時「安心・安全」街頭パトロールを実施しました。

西区



東新潟地区では、蒲原祭巡視活動を中心に、夏休み地区交流野球大会、2月には6年生交流会などを行い活性化に努めています。

東区



味方地区では夏休みに小中学生を対象に越前浜でいきいき子ども塾を開催しました。

南区



有明台小学校地区では、第一高校生らと一緒にJR関屋駅前防犯キャンペーンを実施しました。

中央区



西蒲地区（巻・西川・岩室・中之口・潟東）では、警察、保護司会と連携して万引き防止キャンペーンを実施しました。

西蒲区



横越地区では、9月1日沢海秋祭りにて、太鼓の演奏を行いました。

江南区



わたしの主張 新潟市地区大会開催

八月二十四日「新潟市東区プラザ」を会場に「平成二十五年度わたしの主張・新潟市地区大会（主催：新潟市教育委員会、新潟市青少年育成協議会）」が、開催されました。

今年度は、市内十四校の中学生、約千二百名の作文の中から、一次選考を通過した十一名が、「日ごろの思い」「将来の目標・夢」などを熱く語りました。

最優秀賞には、「新潟第一中学校三年



生 前田陽平さん（テーマ「自分らしく生きる」）が選ばれました。前田さんは、九月二十三日に柏崎市文化会館（アルフォーレ）で開かれた県大会に出場し、新潟市代表にふさわしい素晴らしい発表をされました。地区大会の開催に当たり、ご支援・ご協力いただきました皆さまに厚くお礼申し上げます。

平成二十五年度 わたしの主張

新潟市地区大会 最優秀賞作品

テーマ「自分らしく生きる」



新潟第一中学校
三年 前田陽平さん

「みんな、はじめはきらいなんだよ。」それが自分のことだと気づくのに時間は

ありませんでした。僕にとっては当たり前だったのに。「はじめ」という言葉が頭の中でぐるぐる回り、苦しく響いて胸の奥に刺さりました。「嫌われているのか」と、ぼんやり思いました。「まじめはきらい」という言葉が自分の中で繰り返し共鳴しました。「みんな、「きらい」なんだ、「まじめ」……。それ以来、僕はまわりの目を気にするようになっていました。一人になるのが不安で、クラスでも人気のあるメンバーについて回りました。自分はまじめじゃないと自分に言い聞かせ、それまでとは違った時間を過ごすようになりました。当然、何かに心を奪われたように生活も乱れていきました。部屋は散らかし放題で、何がどこにあるかもわからない状態。夏休みは、小学生以来経験したことがないほど自由に無計画。テスト期間中にさそり釣りに行ったりゲームをしたり……。

「まじめ」だと言われたいだけのためにエネルギーを使っていたように思います。それでも、僕についてまわる「まじめ」というイメージは、消えてなくなることはありませんでした。むしろ、「まじめなくせに」と滑稽に思われ、どうすることもできなくなっていました。僕は、「どうしたらまじめだと思われなかな。」と友達にきいてみたことがあります。すると、「授業中にふざけていればいいんじゃない。」という返事が返ってきました。とてもできるはずのないことでした。

「まるで『アリとキリギリス』だね。」と、僕の話聞いて母が話してくれました。それまでのいろいろなことを改めて考えてみると、まじめにこつこつと、が僕のためよさだったかもしれない。でも僕は、アリであることをやめようとしませんでした。振り返ってみると、キリギリスに憧れ、周りに合わせて楽しむことは一人になった瞬間にはとても空しくて、後ろめたくて、自分が充実した時間を過ごしたとはとても思えませんでした。

頑張ることが当たり前だと信じていたので、何事も人一倍努力する姿勢を貫いてきました。小学生の頃はそれで認められたし、友達も少なくありませんでした。ところが、今ではそれも通用しなくなりました。それは、もしかすると皆が変わったのではなく、僕が変わったからなのかもしれません。中学生になって将来を意識し始め、勉強にも力を入れていきました。でも、周りは何も変わっていないようにも見えました。

そうして、自分を否定しながら周りに合わせることに無理を感じたとき、「一

〇〇%の努力では足りない。自分はいつも一二〇%の努力をしなければならぬ」ということを思い出しました。今その努力が、自分の将来の目標に近づいたためただ一つの道だということ。今が楽しければいいじゃないかと言つ人もいます。努力したって、適当に生きたって将来に大きな差はないと言われることもあります。本当にそうでしょうか。アリである僕は、キリギリスになるうとした経験から学びました。ただ、今のためだけに今を生きているのは、僕にとっては意味がないのだ。けれども頑張る人生もそうでない人生も、また、今を楽しむ人生も将来のために努力するという人生も、それぞれ生き方なのかもしれません。人は当然、皆違った価値観をもっています。思うのは、人が何を言おうと僕は僕なのだということ。僕は僕の人生しか生きられないということ。今を頑張り、充実した今を楽しみ、自分の将来を自分で切り開いていくのです。自分をつくるのは自分です。自分らしく生きることこそが大切なのです。「同じに見えても、頑張った分だけ精神生活は絶対に違うから。」という母の言葉が僕の支えです。努力は決して裏切らない、といいます。同じように見える生活であっても、力を尽くした分だけ精神的な充足感が得られるはず。たとえ失敗したとしても、その過程が、また次の一歩を踏み出す力になると信じています。だから、僕は僕として、自分らしくあります。

坂井輪中学校区

青少年育成協議会の活動

子どもたちの育ちを
地域で支援すること



坂井輪中学校区
青少年育成協議会
会長 阿部 三子

一. 組織について

当会を構成する役員は、正副会長・事務局が継続役員、各専門部正副部長・部員が毎年各自治会から選出される役員です。また、会長がコミ協の理事、事務局長が地域の方という特徴も持っています。

専門部の活動は四名の副会長がそれぞれを担当して正副部長を補佐する形で行っています。そうすることにより、新しい役員が不安になることなく、また新しいアイデアも反映される事業を推進することが出来ます。

またコミ協の子ども部長が当会の会長を兼ねるという規約を作り、コミ協との連携もスムーズに行われています。

二. 事業について

活動方針に沿って四つの専門部事業と、毎年その時代にあった活動を考え新潟市地域活動補助金を申請しての新規事業との二本柱で活動しています。

専門部は楽活部(子どもと子ども、子どもとおとなの共同活動)、環境部(地域環境の浄化)、研修部(子どもやおとなの学び)、広報部(地域への情報発信)です。

〈専門部活動〉

楽活部 コミ協主催の「ぼうけん遊び場坂井輪プレーパーク」

内の一つのブース「子ども創作活動」を担当

環境部 万引き防止巡回(年二回)

コミ協主催の「坂井輪を花で飾ろう」に協力

研修部 私の主張大会

広報部 広報「さかいわ」年二回発行

〈新規事業〉

環境を考える遠足(小学生対象)

避難所運営を考える防災教室(中学生対象)

三. 長く続いている活動

〈私の主張大会〉

今年度第三十一回を迎えるこの大会は中学校区内の二つの小学校の五・六年生と中学校一・二年生を参加対象とし、まず、全員から冬休みの宿題として主張文を書いてもらいます。

そして、冬休み明けに学校で選出された各学級二点の作品を一堂に集め、各校の教頭先生、当会副会長等で審査をして発表作品を決定します。発表作品は、小学生部門は各学年四作品、中学生部門は各学年三作品とします。

大会当日は公民館のホールでそれぞれがステージ上で発表し、それを新潟大学の教授を審査員長に、各学校長、公民館長、当会会長が審査をします。

当日の進行は中学校生徒会に依頼をし、発表者はそれぞれの自治会名を明記して登壇してもらいます。

大会の案内は全児童・生徒の家庭や地域に回覧をして聴衆参加を呼びかけます。そつすることににより毎年たくさんの方々が来場してくださいます。

また、中学校の協力により、中学生部門の最優秀作品を翌年の新潟市の大会に推薦していただいています。



〈万引き防止巡回〉

中学生に万引きに対する規範意識を学んでほしいと考え、夏休みと冬休みに一回ずつ、おとなと中学生で構成する数名のグループで店舗内を巡回するというかたちで実施しています。

しかし、これまでの活動で、大型店舗を巡回するだけでは規範意識が高まらないことが分かり、最近では西警察署や新潟県警察サポートセンターなどからワークショップ型の研修会を開催してもらい、学んでから巡回をするという形にしています。またワークショップがより良いものになるため地域内にある文理高校生、民生委員、警察協力員の方々にも参加してもらい地域ぐるみの活動となつていきます。

四. 新規事業

〈環境を考える遠足〉

小学生を対象に、地域の歴史や生活環境に関心を持つ子どもを育てたいという思いで夏休みに実施しました。バスを使

つて午前中に佐潟ハーブランドシーズン、新潟県水産試験場を巡り、昼食を済ませた後、新潟大学の新しく出来たライブラリーホールで大学院生による講義も受けました。

〈避難所運営を考える防災教室〉

中学生を対象に、いざという時に中学生ができることはたくさんあり、地域の大切な人材だということに気付いてほしいという思いで実施しました。

中越防災安全推進機構の方を講師として、コミ協の防災防犯部の方にも参加をしていただいで実施しました。

五. ビジョン

地域で子どもを育てるには、私たちおとながいつも、子どもにとって最善の利益は何かを考え、失敗をあたたく見守り、ともに活動して感動を共有することが大切だと思います。

子どもは地域の宝だと言われます。私たち育成協の使命は、その宝を磨くおとなの輪を作ることと考えています。毎年集まる新しい役員の方々には、ここに集まったことをひとつの縁と考えて、一年間地域で子どもを育てるということについて考えてほしいと話します。そして一年が終わる時には子どもとかわつて楽しかったと話してもらえたいことを目指しています。

